

大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク  
令和5年度 教室系技術職員向けコミュニケーション研修 開催報告  
外国人研究者等との日本語を活用した  
異文化間コミュニケーションの基礎

【開催日時】

外国人がわかる日本語ってなに？

第1回 やさしい日本語 話し言葉編

6月12日(月)13:30~15:00

第2回 やさしい日本語 書き言葉編

6月26日(月)13:30~15:00

【講師】

大阪大学日本語日本文化教育センター 松岡里奈 特任講師

【主催・後援】

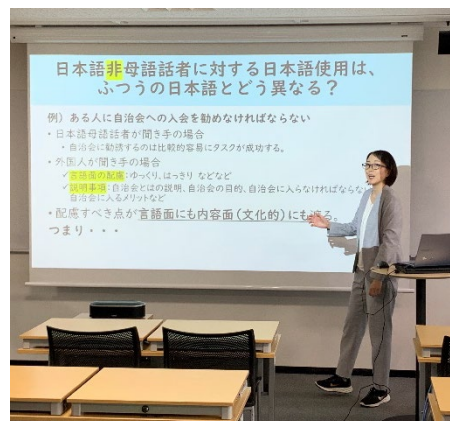
主催：大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク

共催：大阪大学日本語日本文化教育センター

大阪大学安全衛生管理部

後援：大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター

令和5年6月12日、26日に、本学の日本語日本文化教育センター（日日センター）と部局横断型女性技術職員ネットワーク（女技ネット）の共催事業として、「令和5年度 教室系技術職員向けコミュニケーション研修 外国人研究者等との日本語を活用した異文化間コミュニケーションの基礎」と題した研修がオンラインで実施され、学内4部局から8名の技術職員が参加しました。女技ネットでは、全ての研究者・学生が研究に専念できるみんなにやさしい研究環境作りを目指し、令和4年度に「日本語学習支援者養成プログラム（接合科学研究所との連携により日日センターが開発）」を学内女性技術職員に展開しました。今回の研修は、本プログラムの内容をより技術職員向けに改良し受講対象の幅を全ての学内技術職員へ広げたもので、留学生や外国人研究者と接する機会の多い技術職員がコミュニケーションをより円滑化するために英語に加えて日本語を介したコミュニケーションについて学ぶという内容になっています。さらに、大阪大学安全衛生管理部の協力により、技術職員にとって重要な業務の1つである安全衛生に関する実践練習も取り入れることで、技術職員に特化した新しいプ



プログラムを日日センターとともに開発しました。第1回の“やさしい日本語 話し言葉編”では、実際の現場でやさしい日本語を使用する力を養うことを目標としてやさしい日本語の基本的なルールを学び、留学生との会話を題材に実践練習を行いました。続いて、第2回“やさしい日本語 書き言葉編”では、第1回で学んだ基本ルールを元に、やさしい日本語で掲示物や文書を作成する方法を学びました。実験時の服装についての注意や実験室でよく目にする掲示物の言い換え・書き換え実践練習を終え、参加した技術職員からは、「英語だと言ひ換えや確認など難しいが、日本語であれば相手に合わせて調節できると思った」、「相手の立場に立ちながら会話する重要性を感じた」といった声があがりました。さらに、技術職員にありがちなシチュエーションでの実践練習を自分の業務を振り返りながら行えたといった声も聞こえ、技術職員向けに開発されたプログラムの意義を強く感じる事ができました。

今後は、異文化理解に関する研修等へのさらなる展開が予定されています。理系部局と日日センターとの連携という、本学の強みを最大限活かした活動として、また、研究基盤を支える不可欠な存在である技術職員のスキルアップについての新しいアプローチとしての継続的な展開が強く期待されます。

